

第3回佐世保市子ども・子育て会議分科会 議事録（要約版）

〈I〉母子保健の推進と安心な育児環境の充実

日時：令和元年8月7日（水）19時～21時

場所：佐世保市中央保健福祉センター

（すこやかプラザ） 6階研修室1

議事（1）現行「佐世保市子ども・子育て支援事業計画」の一部見直しについて	
●地域子ども・子育て支援事業の追加について	
質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<p>（副食費の施設による徴収に係る補足給付事業について）</p> <ul style="list-style-type: none">保護者は4,500円を超える部分を払うのか。	<p>（子ども支援課長）</p> <ul style="list-style-type: none">副食費は4500円を目安に実費徴収できるとされている。この事業を実施すれば、新制度に移行していない園についても、低所得者と第3子以降の方は負担しなくていいようになる。 この事業では、基準額を超える場合、その分は保護者に負担していただく。
<p>（新制度の意味について）</p> <ul style="list-style-type: none">新制度に移行している、していないとはどういう意味か。	<p>（子ども支援課長）</p> <ul style="list-style-type: none">平成27年に子ども子育て支援新制度が始まり、保育所・幼稚園それぞれの機能を補完する形で認定こども園等の新たな制度がスタートしている。 移行している園は法改正があった時に新しく給付などを受けられるように確認を受けている。 今回、市内で移行していない私立幼稚園5園に、補足で給付する提案である。
<p>（補足給付について）</p> <ul style="list-style-type: none">新制度に移行した園と移行していない園に差がないようにということか。	<p>（子ども支援課長）</p> <ul style="list-style-type: none">ご質問のとおり、新制度に移行していない園であっても、低所得世帯や第3子以降の子どもであれば、差が生じないように助成するものである。

議事（２）次期「新させぼっ子未来プラン」の策定について

●次期「新させぼっ子未来プラン」[案] について

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<p>（「新させぼっ子未来プラン」の文案について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体案が示されていない。今から具体案、詳細をつくっていくのか。 ・ 今回出た意見はそれぞれの事業計画で話し合うが、事業は決まっていなくていいのか。事業にどう生かされていくのか。 	<p>（子ども政策課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな課題としつつ、運用の中で工夫したい。支援事業計画に個別の地域子ども子育て支援事業があり、具体的な実施方法論とサービスの部分を書き込んでいる。 <p>（子ども政策課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見やアンケート結果は、策定における基礎材料であり、今後の推進にあたっての参考資料として活用していく。初年度で対応できなくても、次年度から事業化するなど、効果的な運用を図りたい
<p>（新規拡充について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな事業なり既存事業を拡大する意識を持っているという意味合いなのか。 	<p>（子ども政策課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規拡充の表記は、現行計画が作られた平成 27 年度の書き込みとの比較を意図している。
<p>（ライフデザイン構築のための支援新規拡充について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までやっていないことをやっていくということか。 	<p>（子ども政策課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな拡充要素とした取組は平成 29 年度から検討し、既に事業化しているが、平成 27 年の現行計画と比較すると新たな取組に着手して、今後 5 年間も拡充しながらやっていきたいという要素が含まれている。平成 28 年度中核市に移行し、周辺の関係自治体との連携広域圏を設定した。子ども発達センターなどの事業については近隣の自治体、広域圏と連携し、事業に幅を持たせていくという方向性もある。そういったところを捉えて拡充と記載している。
<p>（新規拡充について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども発達センターと地域での障害児支援で、専門職のスキル向上という文面があるが、専門職がスキルを向上するとか、ケース検討をするのは 	<p>（子ども発達センター所長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの療育に関しては、子どもに特化したスキルを学ぶ機会がほとんどないスタッフに対し、定期的に勉強会を開いている。

当たり前のこと。研修を実施する等、それに対して市がお金を払うということで書かれるのであればわかるが、どういう関係性で書かれているのか説明してほしい。

- あえて発達センターだけを取り上げて市の計画に入れるのはなぜか。

(子ども発達センターについて)

- より拡充するならば、医師である迎先生が1人で見ていると、他の専門職や相談相手がほしいので、スーパーバイザーを呼ぶ予算を付けてほしい。

(ひとり親家庭について)

- 経済的なことや子育てのことを、行政に相談するのは結構ハードルが高いのではないかと。専門家ではなく気軽に相談できるような体制もあるといいのではないかと。

(アンケート数値について)

- 満足度が46%で、半分以上の人が不満と書いている項目があるが、どこにも盛り込まれていない。せめて努力目標にするなど、回答者の気持ちを反映させてほしい。

(子育て支援事業計画の量の見込みについて)

- 量の見込みの推計で、養育支援訪問事業や子育て短期支援事業は数が横ばいなのはなぜか。

原則、佐世保市内でやっていたが、それを周辺の自治体へ広げていくという意味合いでの広域である。

(子ども発達センター所長)

- 子ども発達センターは、市の施設でもあるので計画中に盛り込んでいる。

(子ども政策課長)

- 満足度を上げる努力は必要。講演会や啓発など、個別の事業が細かくあり、それぞれに事業評価、行政評価を個別に行い、成果指標を設定している。今後、どのくらい満足度を上げていくのか、運用の中で意見を生かしていく。

アンケート調査結果等について、図表や数値も含めて、できるだけ触れたい。

計画書は付随する資料としてアンケートの結果報告書という冊子もまとめている。今後、運用についてはセットで利活用し、公表もセットで公表したい。

(子ども政策課長)

- 養育支援訪問事業の過去5年間の実績は右方下がりである。

今後見込まれるニーズも一定加味し、直近の2016～2018年の数値の平均を若干右方下がりから上げた形の水準で推計している。

子育て短期支援事業も同じような状況だが、

<p>(児童数について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「住民基本台帳の人口（外国人登録者を除く）」とあるが、外国人児童は支援を受けられないのか。 	<p>今後の課題認識、状況をふまえて最大値を見込んでいる。</p> <p>(子ども政策課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見込みでは外国人登録者を除いた人口推計で出している。全国統一的な推計の方法として、住基台帳のこういう定義で算出するのが一般的。 <p>実際の運用については、当然外国人登録者も受け入れている。一定枠の中では、受け入れながら、今後、見込み・確保を図っていく。</p>
<p>議事（3）その他</p>	
<p>質問・意見等</p>	<p>事務局回答・今後の方針など</p>
	<p>(今後の会議日程について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月26日～29日を予定。